

第 12 回群馬県地域リハビリテーション協議会の報告

群馬県地域リハビリテーション協議会委員長 山口晴保

平成 23 年 3 月 17 日に県庁にて開催予定であった第 1 2 回の協議会は、1 1 日に発生した東北関東大震災の余波を受けて、会議の開催を断念し、持ち回り協議会となりました。

協議事項の一番目は「今後の地域リハビリテーションの取り組みについて」で、事前のアンケートに基づいて報告させていただきます。保健福祉事務所からの意見では、①地域リハを取り巻く環境が、この事業が開始された当時とは大きく変化し、各種の委員会が設置され、研修の機会も増えているので事業内容の見直しが必要であろう、②介護予防イベントや介護予防サポーター養成以外の柱となる事業が望まれる。③医療圏域と各センターの領域とがずれている問題点、などが指摘されました。

二番目の議題の県支援センターと広域支援センター12か所の活動については、県支援センターがとりまとめる年度の活動報告書に載っておりますので、そちらをご覧ください。

三番目の議題はこれまでの経緯と平成 23 年度予算案についてです。介護予防サポーターの育成は、表にありますように順調に伸び、多数の市町村で活躍しております。平成 23 年 2 月 27 日には高崎イオンのイオンホールBにて介護予防サポーター交流大会が開催されましたので、その記事をお読みください(3 ページ)。

平成 2 3 年度の予算につきましては、いきいき介護予防普及啓発事業の国庫補助金が大幅減額のため、広域支援センターの予算が減額されます(1か所あたり 31 万円の減額)。経済状況が厳しい折に震災が加わり、群馬県や市町村が被災者の受け入れに追われております。広域支援センターが、被災者の支援にも役立つことを願っております。

表 介護予防サポーター養成研修実施状況

年度	初級	中級	上級
H18	2,093	1,172	66
H19	1,184	942	285
H20	1,083	762	540
H21	876	650	377
H22	672	499	283
計	5,908	4,025	1,551

群馬県地域リハビリテーション支援センター長を退任するにあたって

群馬県地域リハビリテーション支援センター 酒井保治郎

この 3 月で、14 年間お世話になった群馬大学保健学科を定年退職することになりました。それに伴い、県支援センター長を退任させていただくこととなりました。

思い起こせば、平成 13 年 12 月に、本県の地域リハの推進を目的に、県内のリハ関係団体が集い、群馬リハビリテーションネットワーク (GRN) が結成されました。発起人の一人として、設立研修会を企画し、その後も、毎年、地域リハに関する研修会を開催してきました。そのような GRN の活動が評価され、平成 16 年 7 月、群馬県から県地域リハビリテーション支援センターとして、GRN が指定され、その中で約 7 年間務めてきたことになり

ます。当初は熊本、長崎などの先進県から学ぶ形で活動を開始しましたが、最近では群馬県の活動が他県から注目されるようになりました。今までの群馬県(介護高齢課)の担当の方々、広域支援センターや市町村の担当の方々を始め、多くの方々のご尽力のおかげと、感謝しております。また、何とかセンター長を務めることができましたのは、母体である GRN、特に設立以来からの理事長である矢野先生、そして保健学科の山口先生、浅川先生、勝山先生、そして研修会ではご協力くださった GRN の研修部会員の皆さまのご協力のたまものであり、ここに厚くお礼申しあげます。ありがとうございました。

第9回群馬地域リハビリテーション研究会報告

「群馬地域リハ研究会」に参加して感じたこと……………

美原記念病院 藤沢恵美

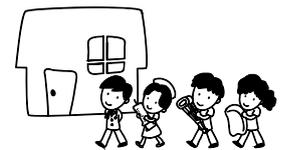
1月22日に群馬会館で行われた「第9回群馬地域リハ研究会」に参加しました。藤本幹雄先生に「脳卒中のリハビリテーションとリハスタッフ間の連携」という内容のもと、ご講演を頂きました。

脳卒中のリハビリテーションのあり方についてのお話では、藤本先生が当院で築いてきたシステムを紹介しながら説明して下さいました。その中で、看護師による病棟リハを導入する際、医師や看護師、PT、OTで検討を密に行った例を挙げ、多職種がチームとして連携することが重要だと強調されていました。また、他職種との連携の仕方は、環境・病状・社会的要因・個人の能力等により変化するため、随時フォローし合うことが大切とのことでした。私は、患者さまの現状を十分に把握した上で、その時々に必要な連携の形を模索し促進できれば良いと思いました。また、自分の専門分野を習熟するだけでなく、他職種と情報を共有することによって、互いにフォローし合うことが可能になるのではないかと考えまし

た。

本研究会のテーマである地域リハのあり方についてもお話がありました。現在、藤本先生が勤務している千葉県のある地域では、高齢化に伴い医療を必要としている人が多いにも関わらず、医療費（一人あたり）・介護資源が充実していない現実があるそうです。地域によって社会資源や介護資源が異なるということは、その地域で医療職が求められる役割も異なるということです。私は、まずは自分が勤務している伊勢崎地域の現状を把握し、自分に何ができるかを考えていく必要があると思いました。

本研究会は、病院のチーム内はもちろん、地域の中で働く作業療法士としても、自分に何ができるか考える良いきっかけになりました。藤本先生の講演で学んだことを、今後の臨床活動に生かしていきたいと思います。



鷲田先生の講演に参加して……………

介護老人保健施設 けやき苑
作業療法士 鹿又 愛

今回VTRでは、子どもと高齢者に対して「スライム」「小麦粉ねんど」「造形リトミック」「玩具」の遊びのアプローチを実施されていました。そのVTRを拝見したことで、子どもと高齢者の反応・表情・行動が大きく違うことに、時々微笑ましくあったと同時に、私には今後利用者様にどんなことができるのかを改めて考えさせられました。

子どもに遊びを提供すると、まだまだ経験が浅い彼らは初めて見るものに興味津々で、驚きの表情や笑顔を見せながら、どんどん触って感覚を楽しんでいるようでした。子どもは分からないこと自体が楽しく、その分からないことに挑戦することも楽しんでいるような印象を受けました。また、「すごいね!」「上手だね!」と鷲田先生が褒めると、子どもたちは更に嬉しそうな様子でした。

子どもに比べて高齢者は、初めて見るものに対して表情が硬く、初めは触ることもしようとしていませんでした。高齢者は、今まで多くの経験をされており、また自我が形成されているため、その経験がどんどん失われたりできていたことが

できなくなっていく不安を感じている方も多いと思います。そんな不安があるため、分からないものはやりたくないという気持ちもあったのかも知れません。

その後施設のスタッフと共に、鷲田先生が高齢者の方々に遊ぶ方法を実際にやってみせたり、勧めてみると徐々に慣れてくると共に笑顔がみられるようになっていました。中でも私が最も印象的だったのは、車いすに座り俯いて目を閉じていた男性が、スタッフのサポートのもと玩具を使ってみると、それまでの様子が嘘だったかのように覚醒し、表情は明るくなり、自ら玩具で遊び始めた場面です。そしてスタッフが「すごいすごい!」と褒めた時の嬉しそうな様子は、とても微笑ましく感じたのを覚えています。

子どもと高齢者の反応の差が大きいと感じると共に、当苑で行っている回想法等を通して、高齢者が経験してきたことやできることを失っていく不安を、できるだけ無くしていきたいと思いました。

第2回介護予防サポーター交流会 開催！

群馬県地域リハビリテーション支援センター
事務局長 浅川康吉

介護予防でいきいき

高崎 13団体が情報交換

第2回介護予防サポーター交流会(県地域リハビリテーション支援センターなど主催)が27日、高崎市のイオンモール高崎で開催された。13団体が介護

予防活動を紹介するパネルを展示、体操の実演も行われ、大勢の福祉関係者が訪れた。転倒・認知症・閉じこもり予防や筋力アップ、栄養改善などをま

とめて「介護予防」と呼ぶ。県の介護予防サポーター育成事業は2006年度に始まり、これまで約5千人が初級を修了した。中級、上級もある。



介護予防サポーターの実践例などが紹介された会場

平成23年2月27日に高崎イオンのイオンホールBにて介護予防サポーター交流会が開催されました。この大会は平成21年2月1日に前橋市中央公民館(前橋プラザ元気21)で行った第1回大会に続く2回目の大会でした。

今大会では、サポーター同士の交流に加えて、一般県民にサポーター活動を知っていただくことも目的にしました。このため会場をイオンホールに設定したところ、150名を超えるたくさんの方々に訪れてい

だきました。その中には親子連れの方や車イス利用者の姿もありました。今大会でははじめてステージプログラムも行いました。午前中の体操(高崎市長寿社会課・高崎安中地域リハビリテーション広域支援センター)も午後のアートセラピー(利根沼田広域支援センターうちだ)も大好評で50脚のイスが足りなくなるほどのにぎわいをみせました。当日の様子は上毛新聞にも掲載されました。

介護予防サポーターは初級受講者5,908名、中級修了者4,025名、上級サポーターも1,551人となっています(平成23年3月集計)。県支援センターとしてはサポーター育成支援だけでなく、これからは彼らの活動を一般県民に向けて広報することにも力を入れていきたいと思っております。

出展団体名(アイエウ順)

大泉町介護予防サポーター／渋川市役所高齢福祉課／渋川地域リハビリテーション広域支援センター／昭和村介護予防サポーター／榛東村役場 健康・保険課／高崎市長寿社会課・高崎安中地域リハビリテーション広域支援センター／玉村町／利根沼田地域リハビリテーション広域支援センターうちだ／沼田市／藤岡市介護高齢課／前橋市・介護予防サポーター／みどりふれあいサポーター／吉岡町四つ葉介護予防サポーター／

第2回介護予防サポーター交流会に参加して

利根沼田広域リハビリテーション支援センターうちだ
アートセラピスト 高野理子

平成23年2月27日にイオンモール高崎にて介護予防サポーター交流会が開催されました。当センターでは介護予防サポーター研修会でアートセラピーを取り入れて参りましたが、交流会では「認知症リハビリとしてのアートセラピー」というステージ発表をさせていただきました。50名近い参加者の中には95歳の車椅子のお母様と参加された方もいらっしゃいました。ステージ発表ということで、アートセラピーについての説明が中心となりましたが、その後数名の方に簡単なカリキュラムを体験していただきました。



<アートセラピーとは>

当センターで行っているアートセラピー（臨床美術）は感性や感情の脳である右脳を、活性化することで脳全体の機能を向上させ、認知症の改善や予防、生きる意欲や自信の回復を目的とした芸術療法です。また回想療法の手法も取り入れた、脳のリハビリテーションや介護予防を目指して提供しています。

右脳を活性化するためには十分なイメージを呼び起こすことが重要で、味や香り重さなど五感を使って実感し、テーマや作品にまつわる風習、思い出などを話し合い、参加者が主体となって興味や関心を持って制作に取り組めるように工夫されています。

アートセラピーでは出来上がった作品を鑑賞しながら、「形がいい」「構図がいい」「色がきれい」など、具体的に良い評価をされることで作品を通じて自分の感性や存在を認められていると感じ、意欲の向上や動機付けになるばかりでなく、参加者同士のコミュニケーションにも役立つように努めています。

「非日常の時間と空間」が過ごせるよう、握手で挨拶をして出迎えるなど、自分が特別なゲストであると感じて過ごせる時間になるように心配りをし、より高い満足度が得られるように配慮しています。テーマの選び方やセラピー中の言葉遣いに気を配り、一方的な指導ではなく共感しながら一緒に制作していくことを基本にしています。

山口晴保先生の提唱する「脳活性化リハビリテーション」(1)快刺激で笑顔になる(2)ほめることでやる気が出る(3)コミュニケーションで安心する(4)役割を演じることで生きがいが生まれる(5)誤りを避ける学習で正しい学習方法を習得する 以上の5原則はまさにアートセラピーの目指す形で、リハビリにプラスして感性を引き出すお手伝いのできればと考えています。



県支援センター事務局便り

(H22. 11~H23. 3)

- 11.15 ニュースレター15号発送
- 12.6 県介護高齢課より1/2期事業予算を受入
- 1.22 第9回群馬地域リハ研究会
- 1.27 県介護高齢課より2/2期事業予算を受入
- 2.27 第2回介護予防サポーター交流大会
- 3.17 第12回群馬県地域リハビリテーション協議会・広域支援センター連絡協議会持ち回り協議
- 3.31 ニュースレター16号発行

群馬リハネット事務局便り

(H22. 11~H23. 3)

- 平成23年3月現在会員等の状況
- * 加入団体 32団体
 - * 賛助会員 団体会員 2団体
(株)孫の手・ぐんま(旧ハッピーラブハッピー)と、榛名荘病院より賛助会費をいただいております。
 - * 個人会員 1名
- 12.5ぐんま認知症アカデミー第5回秋の研究発表会(後援)
- 1.22 平成22年度第2回理事会

ぐんま認知症アカデミー

第6回春の研修会

認知症の医療とケア：被災者受け入れ

日時：平成23年6月5日(日)13:30~18:00

場所：群馬会館 ホール 参加費：500円

* シンポジウム

「受け入れ被災者の認知症対応～現場から」

* 「認知症の音楽療法～楽しく歌おう」

講師：高橋由貴子(内田病院)

* 教育講演

「BPSDとパーソンセンタードケア」

講師：水野裕(いまいせ診療センター)

※詳細とお申込は、ホームページをご覧ください。

<http://happytown.orahoo.com/ninchi/>

編集デスク

山口晴保 清水尚子

山上徹也 角田祐子

発行

群馬県地域リハビリテーション支援センター

連絡先

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局

群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻内

Tel/Fax : 027-220-8966

E-mail: tsunoday@health.gunma-u.ac.jp